2020.6.25

大草

読書メモ

139.ハンス・ロスリング他共著「FACT　FULNESS」日経BP社（2019.1）

**＜ハンス・ロスリング他共著「FACT　FULNESS」から＞**

この本は、10の思い込みを乗り越え、データをもとに世界を正しく見る習慣をつけることを目的に書かれた本である。では、早速、その質問に回答してみよう。

質問1　現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を修了するでしょうか?

A　20%

B　40%

C　60%

質問2　世界で最も多くの人が住んでいるのはどこでしょうか?

A 低所得国

B 中所得国

C 高所得国

質問3　世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去20年でどう変わったでしょうか?

A 約2倍になった

B あまり変わっていない

C 半分になった

質問4　世界の平均寿命は現在およそ何歳でしょうか?

A 50歳

B 60歳

C 70歳

質問5　15歳未満の子供は、現在世界に約20億人います。国連の予測によると2100年に子供の数は約何人になるでしょうか?

A 40億人

B 30億人

C 20億人

質問6　国連の予測によると、2100年には今より人口が40億人増えるとされています。人口が増える最も大きな理由はなんでしょうか?

A 子供（15歳未満）が増えるから

B 大人(15歳から74歳）が増えるから

C 後期高齢者（75歳以上）が増えるから

質問７　自然災害で毎年亡くなる人の数は、過去100年でどう変化したでしょうか？

A　二倍以上になった

B　あまり変わっていない

C　半分以下になった

質問８　現在、世界には約70億人の人がいます。世界の人口分布を正しく表しているのは、どれでしょうか？

A　アジア40億　アフリカ10億　ヨーロッパ10億　南北アメリカ10億

B　アジア30億　アフリカ20億　ヨーロッパ10億　南北アメリカ10億

C　アジア30億　アフリカ10億　ヨーロッパ10億　南北アメリカ20億

質問9　世界中の一歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのぐらいいるでしょうか？

A　20％

B　50％

C　80％

質問10　世界中の30歳男性は、平均10年間の学校教育を受けています。同じ年の女性は何年間学校教育を受けているでしょうか？

A　9年間

B　6年間

C　3年間

質問11　1996年には、トラとジャイアントパンダとクロサイはいずれも絶滅危惧種として指定されました。この三つのうち、当時よりも絶滅の危機に瀕している動物はいくつでしょうか？

A　2つ

B　１つ

C　ゼロ

質問12　いくらかでも電気が使える人は、世界にどのくらいいるでしょうか？

A　20％

B　50％

C　80％

質問13　グローバルな気候の専門家は、これからの100年で、地球の平均気温はどうなると考えているでしょうか？

A　暖かくなる

B　変わらない

C　寒くなる

正解（解答の解説は省略）

1C　2B　3C　4C 　5C　6B　7C 8A　9C　10A　11C　12C　13A

この本では、間違う理由について以下のコメントがある。

1．自分たちの知識がアップデートできていないため。過去の記憶がそのまま残っているため。

2．先入観があるため。

「世界では、戦争、暴力、自然災害、人災、腐敗が絶えず、どんどん物騒になっている。金持ちはより一層金持ちになり、貧乏人はより一層貧乏になり、貧困は増え続ける一方だ。何もしなければ天然資源はもうすぐ尽きてしまう」

3．脳の機能による(これが真の原因であるという)。

先祖に必要だった本能、差し迫った危険から逃れるために一瞬で判断を下す本能など。

脳の本能とは、以下を指している。

①世界が分断されているという思い込み(分断本能)

②世界はどんどん悪くなっているという思い込み(ネガティブ本能)

（悪いニュースの方が広まりやすく、記憶に残る）

③世界の人口はひたすら増え続けるという思い込み(直線本能)

④危険でないことを恐ろしいと考えてしまう思い込み(恐怖本能)

⑤目の前の数字が1番重要だという思い込み(過大視本能)

⑥1つの例がすべてに当てはまるという思い込み(パターン化本能)

⑦すべてはあらかじめ決まっているという思い込み(宿命本能)

⑧世界を1つの切り口で理解できるという思い込み(単純化本能)

⑨誰かを責めれば物事が解決するという思い込み(犯人探し本能)

⑩今すぐ手をうたないと大変なことになるという思い込み(焦り本能)

以上の10個の思い込みを克服することで、世界をより事実に近い理解ができるようになり、正しい判断ができるようになるという。

この本を読んでの私の感想は、以下の通りである。

1.　10の思い込みはその通りであり、事実と異なる思い込みは多い。

2.　しかし、10の思い込みは、著者の自分にとっての都合の良いデータだけを恣意的に使っているように思う。

3.　他のデータも見せるべきではないか。例えば「オゾン層を破壊する物質の発生量を減少させている。だから問題は解決されつつある」との記述があるが、「オゾン層破壊する物質の発生量を減少させても、過去に破壊されたオゾンホールは変化しないのではないか。南極の破壊されたオゾンホールはむしろ拡大しているのではないか」。他のデータがないと判断でき兼ねる。

４．ファクトフルネスの考え方は立派だが、データを見る目、どのようなデータを採用するかを正しく判断できることが大切である。ある主張に都合の良いデータだけを提示して、その主張を強化し、人々に信じ込ませる手法をとる人間もいることに注意を要する。

5.　何をどうしていくのかというビジョンがあって初めて、データに裏打ちされたファクトが生かされると思う。

**＜意見交換のテーマ＞**

**テーマ１．質問１～13を回答しての感想は？**

　質問への回答をしてみて、どのような感想を持ちましたか？

**テーマ２．ファクトの使い方によって変わる結論について**

　取り上げるファクトの種類と取り上げ方によって、国民をミスリードさせることも可能である。国民が、ファクトとファクトの提示された背景などを正しく理解し、自分で正しく判断できる理性が大切である。大衆迎合型の政治に左右されないためには、どのような考え方をすればよいと思いますか？

以上

＜参考＞

この本で指摘されているグローバルリスク

1パンデミック

2金融危機

3世界大戦

4地球温暖化

5極度の貧困

6.見えないリスク